

「フリー・ガザ」も視野に 普遍的な連帯を問う思想論を提示


ウクライナ侵略を考える

「大国」の視線を超えて

加藤 直樹



「反侵略」の立場から侵攻を相対化する議論を批判し、歴史的主体としてのウクライナを考え、二重基準を超えた「世界的公共性」への途を探る

定価 2200円 (2000円+税) 

定価2200円(本体価格2000円+税)

46判並製 348ページ

ISBN978-4-87154-255-5 C3031 2000E

それは私にとって、東アジア諸国の近現代史の中から聞き取った様々な声を思い出させるものだった。ウクライナ人は、CIAの操り人形でもなければネオナチの悪魔集団でもない。プーチンの救いを待つ哀れな人々でもない。彼らは、彼ら自身の歴史の主体なのだ。

目次

- 第1章 「ウクライナ戦争」とはどのような出来事か
- 第2章 「ロシア擁護論」批判① — それは大国主義である
- 第3章 「ロシア擁護論」批判② — それは民族蔑視である
- 第4章 「ロシア擁護論」批判③ — それは「平和主義」の傲慢である
- 第5章 「ロシア擁護論」批判④ — それはどこから来たのか
- 第6章 ロシア擁護論は「2014年」をどう語っているのか①
- 第7章 ロシア擁護論は「2014年」をどう語っているのか②
- 第8章 「マイダン革命」をウクライナ人自身はどう見ているのか
- 終章 「ウクライナの発見」と世界の行方

著者プロフィール

加藤直樹(かとう なおき)

1967年東京都生まれ。

出版社勤務を経てフリーランスに。

著書に『TRICK「朝鮮人虐殺」をなかったことにしたい人たち』(ころから)、『九月、東京の路上で 1923年関東大震災ジェノサイドの残響』(ころから)、『謀叛の児 宮崎滔天の「世界革命」』(河出書房新社)。共著に『NOヘイト! 出版の製造者責任を考える』(ころから)。翻訳にチェ・ギョソク作『沸点 ソウル・オン・ザ・ストリート』(ころから)がある。

 あけび書房

TEL: 03-5888-4142

FAX: 03-5888-4448

〒167-0054 東京都杉並区松庵3-39-13-103

<https://akebishobo.com/> Mail: info@akebishobo.com



ご記入の上、最寄りの書店あるいはあけび書房へご注文下さい。

注文書	書店印・取扱先	ウクライナ侵略を考える		注文数
	団体名		氏名	冊
	送り先	〒()-()	電話番号	
	その他備考			

取次帖合：日販・トーハン・楽天ブックスネットワーク・中央社・大学図書・日教販・全官報・新日本図書・鎌谷書店・JRC

発行：あけび書房 TEL.03-5888-4142 FAX.03-5888-4448